

## 「落下する球体」

多田和希と里沙の夫婦はお互い三十六歳。結婚して五年。マンションの六階に部屋を借りて二人で住んでいる。子供はなく、表面的な会話しか交わさない乾いた関係になっている。

ある日、和希がダイニングの小窓からテーブルにあった紙ナフキンを丸めて放り投げる。衝動的に行つた小さな悪行が里沙を怒らせる。なぜか微かな喜びを覚える和希。

里沙は怒り、落としたナフキンを階下に探しに行こうとするが、和希はもう会社へ行くから自分で拾うと言つて家を出た。和希の奇行をどこか心配しつつも、日ごろからの不満に気を取られ、里沙はナフキンのことを忘れてしまう。

和希は半年前に唯一の肉親であった母を亡くしていた。自分でも驚くほどの喪失感を味わっていた最中、会社で上司から嫌がらせを受けるようになった。

同僚たちはハラスメントの渦中にある和希とのかかわりをそれとなく避け、和希は孤立する。陰でこっそり味方になってくれる先輩もいるが、和希は同じ上司から嫌がらせを受けている女性社員を密かに同士のよう感じ始める。

会社で和希がハラスメントを受けているとは知らない里沙。二人のマンションでは和希と里沙との無言の攻防が始まる。窓から丸めたナフキンをこっそり投げ捨てる和希。その現場を押さえてやめさせようとする里沙。しかし里沙が注意して見ている、和希はいつの間にかナフキンを投げ捨てている。里沙は証拠を突き付けようと、和希が出かけた後、落としたナフキンを階下に探しに行く。

会社で和希は、同士と感じ始めていた女性社員が上司か

ら嫌がらせを受けている現場に遭遇する。他の社員達の前で床にばら撒かれた書類を拾わされている彼女を助けようとして、カーペットにコーヒーをこぼしてしまう和希。上司から散々嫌味を言われ、カーペットを弁償するように言われる。

同士と感じていた女性社員に上司のハラスメントを何とかしないかと持ち掛けるが、彼女からも拒絶される和希。ショックで母を失つた時の激しい喪失感が蘇り、倒れそうになるのを必死でこらえる。

体調不良を理由に早めに退社した和希は、公園で一人酒を飲み、酔つてマンションに帰る。すると、里沙が階下で拾ってきた丸めたナフキンを、テーブルの和希の夕食が載るはずの場所に置いてある。逆上する和希。和希を咎めようとする里沙と喧嘩になる。

口喧嘩の末、和希は里沙が大切にしていた小さな鉢植えの植物を、いつもナフキンを投げ捨てていた窓から外へ放り投げる。それに怒った里沙は、階下で鉢植えを回収するとそのまま実家に帰ってしまう。

酔つて寝てしまった和希は夜中に目覚め、里沙がいないことに気付く。何もかも嫌になり、今度は自分自身の体をマンションのベランダから放り捨てようと考え。しかし自分の死後里沙がどうなるか気になり始め、同士と思っていた女性社員のことにも気になり始める。嫌がらせを続けるであろう上司を殺して会社のビルから飛び降りるのがいい、と思いつき、キッチンから包丁を取り出す和希。包丁を握りしめたままコートポケットに手をつ込み、その

まま玄関で出勤の時間を待つ。

一方里沙は実家に帰り、一晩ゆっくりすることで気持ち落ち着ける。朝起きて母が作ってくれた朝食を食べるうち、和希にはもう肉親がないことに思いついた。母を亡くした和希の喪失感を想像しきれていなかったことにより、よく気付き、急いでマンションに戻る里沙。

ちょうど玄関を出ようとしていた和希と鉢合わせる里沙。憔悴しきつた様子の和希を見て思わず抱きしめる。里沙が会社を休むように助言すると、和希の手の力が抜け、刃先で破られたコートのポケットから包丁が床に落ちる。

包丁を拾った和希は、自分が何を考えていたかを一瞬忘れてしまう。放心状態で包丁を見つめる和希に里沙が恐る恐る手を差しだすと、和希はきちんと柄を向けて里沙に包丁を渡すのだった。